

令和8年度 徳島県教育課程研究集会

中学校部会

令和8年7月28日（火）

於：徳島県立総合教育センター

<部会Ⅱ>の流れ

協議題

生成AIを活用した

魅力ある授業づくり

～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

11:00 - 11:02	日程説明
11:02 - 11:15	生成AI活用について
11:15 - 11:35	グループ協議
11:35 - 11:50	全体共有
11:50 - 12:00	まとめ

イントロダクション

ペアトーク (2～3分)

道徳科の授業の学びを深めるために、どんなAI活用が考えられますか？

今の時点のお考えで構いません。AI活用への期待、または悩みや困っていることなど、率直な思いをお隣の方と共有してみてください。

道徳科の目標と授業づくりの視点

◎ 道徳科の目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

Q 4つの特質

- 道徳的諸価値の理解を基に
- 自己を見つめる
- (広い視野から)多面的・多角的に考える
- 自己の(人間としての)生き方についての考えを深める

詳細は学習指導要領解説

特別の教科道徳編 文部科学省 (小 p16) (中 p13)

道徳教育の充実に向けた方策：『考え、議論する道徳』の実装へ

「要」としての道徳科と特別活動等の連携

「深い学び」の実現に向けた教材の在り方と指導方法の工夫

道徳科におけるAIとの向き合い方

「人間として生きること」や「人間としての価値判断と責任」が問い直され、
自己を見つめ、生き方についての考えを深める道徳教育が一層重要になっているとの指摘がある。

「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」 (Ver.2.0)

人間中心の原則 (AIは「人間の能力を補助、拡張する有用な道具」)

- ・ AIの出力結果はあくまで参考の一つ。鵜呑みにせず、人間が責任をもって判断します。
- ・ 「答え」を求めるのではなく、「足りない視点」を見つけ議論を深めるために活用します。

個人情報の保護と著作権の遵守

発達段階等に留意しつつ、「個人情報保護法等を遵守すること」や「著作権侵害につながるような使い方をしないこと」など、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用することが求められています。

「考え、議論する道徳」の実装に向けた 学びの在り方について(2)

令和8年4月28日 道徳ワーキンググループ 配付資料より

- AIに異なる立場の意見を示させること等により、考えの多面化・多角化を促進する。

(留意事項)

- ・ AIの回答を正解として扱うのではなく、道徳的価値との関わりで批判的に吟味できているか。
- ・ **自分で考えた後で補助的にAIを活用するなど、迷いや葛藤を含め子供自身が考える機会が確保できているか。**

活用例①：自分にはなかった「視点」をもらう

🐾 AIは「第3の友達」

登場人物の気持ちを考える場面で、AIに「別の考え方」を聞いてみます。

意外な視点に「ああ、そんな気持ちもあるかも！」とひらめきが生まれます。



Geminiによる生成

中学校道徳におけるAI活用：「二通の手紙」

出典：わたしたちの道徳 中学校(文部科学省)

～「規則と思いやり」の葛藤から、規則の捉え方の変容に迫る～

① 活用場面（生徒の思考が深まり、悩んでいる時）

元さんの「この年になって初めて考えさせられることばかりです」という言葉の真意について話し合い、生徒が深く悩んでいる場面。

② 教師のプロンプト（生徒に見せる指示文）

「今、クラスみんなで、元さんが最後に言った『この年になって初めて考えさせられることばかりです』という言葉について話し合っています。事件を通して、元さんの『規則』に対する考え方はどう変わったのでしょうか？私たちの考えを深めるヒントとして、AIさんの意見を聞かせてください。」

③ AIの回答（道徳的価値の理解が深い第3の友達）

「元さんは最初、『困っている子を入れてあげるのが優しさだ』と思っていたかもしれませんが。でも事件の後、規則とは実は、みんなの安全を守るために作られた『**見えない大きな思いやり**』なのだと気付いたはずです。全体を守る厳しさもまた、本当の優しさなのだと初めて考えさせられたのではないのでしょうか。」

なぜ、教師の発問ではなくAIなのか？

～AIを「第3の友達」として活用する真のねらい～

教師の発問の場合

(例：「規則は思いやりじゃない？」)

生徒は評価者である教師に「**忤度（そんたく）**」し、正解だと思って意見を合わせてしまう。
(=教え込みになってしまいがち)

AIの回答（第3の友達）の場合

(AIの回答をみんなで読む)

AIは評価者ではないため、生徒は「**AIは綺麗事を言うけど、自分はそうは思わない**」と気兼ねなく反論でき、本音を引き出せる。

④ 教師のフォロー（AIはフラットな叩き台）

「AIはこう言っているけれど、みんなはどう思う？」と問い返し、AIの意見を絶対の正解にせず「**叩き台**」にする。

AI活用は「価値の教え込み」になる？

(「初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン」(Ver.2.0)を踏まえて)

答えは「**NO**」です。

むしろ、多面的・多角的な見方を引き出す有効な手立てです



「教え込み」にしないための2つのカギ

🕒 **タイミング**：子供たちが悩み、意見を出し尽くした「**後**」に使う。

(葛藤を奪わない)

⚖️ **扱い方**：「AIがこう言ってるから正しい」とまとめない。AIの意見を「**吟味の対象**」とし、最終的な判断は子供に委ねる。

活用例②：安全な場所で「試行錯誤」する

AIは「役者さん」

「正直に言いたいけど、友達を傷つけない…」。そんな葛藤の場面で、AIに相手役になってもらいます。

色々な言い方を試して、納得できる答えをシミュレーションします。

活用例③：思考の「偏り」を壊す

AIは「あえて反対を言う人」

- ・ 集団思考で意見が一つに固まりそうなとき、AIに「あえて反対の立場」を出させます。
- ・ 揺さぶりから、議論がより深く、本質的なものへと進化します。

学びを深める「パートナー」として

AIは正解を教える道具ではなく、子供たちが悩み、友達とぶつかり合い、考えを深めていくための「鏡」であり、「パートナー」です。

AIが瞬時に答えを出す時代だからこそ、人間らしく迷い、心で感じる道徳科の時間が、これまで以上に子供たちの生きる力になります。

🗨️ グループ協議

インプットから、アウトプットへ

📌 事前課題に基づく話し合い

御持参いただいた事前課題を基に、以下の2点について自由に情報交換を行ってください。

① AIを活用した授業実践例・アイデア

各学校・各学年の特性に応じた実践事例や、「こんな使い方をしてみたい」というアイデア。

② 活用に向けた課題や気になること

実践してみて気付いた壁や、これから活用を進める上で不安に感じていること・懸念点。

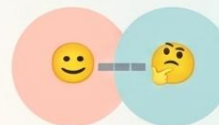


グループ編成

前の画面（座席表）のグループに分かれてお話しください。

協議時間

20分間



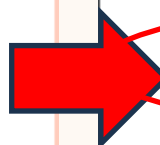
<部会Ⅱ>の流れ

協議題

生成AIを活用した

魅力ある授業づくり

～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～



11:00 - 11:02	日程説明
11:02 - 11:15	生成AI活用について
11:15 - 11:35	グループ協議
11:35 - 11:50	全体共有
11:50 - 12:00	まとめ

<部会Ⅱ>の流れ

協議題

生成AIを活用した

魅力ある授業づくり

～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

11:00 - 11:02

日程説明

11:02 - 11:15

生成AI活用について

11:15 - 11:35

グループ協議

11:35 - 11:50

全体共有

11:50 - 12:00

まとめ

